

一番コツヘルを工場に忘れてきた

良く食べ、飲み、語り、早めに眠る

を相討する、天気が最悪、雪

何となく薄暗くなってきた。少しあせってくる。大きなケルンの所で座って休む。2人共疲れ果てていた。毛利の長い睫毛にまた氷が光っていた。少し行くと傾斜もゆるくなり頂上の標識が見えた。頂上で堅い握手。苦闘の末勝ち取った頂だった。ふと、その時は熱いものが込み上げてきた。・・・

一体何なのだろう。・・・毛利の事を思うとヤケに泣けてきた。この年令でひたむきに山に登る毛利私を信じてどこまでも一緒に登る毛利、絶対弱音を吐かない毛利。・・・私もいろいろ教えられる事が多かった。そんな事を考えたら急に泣けてきた訳だ。久し振りに冬山らしい冬山だったと2人で笑った。

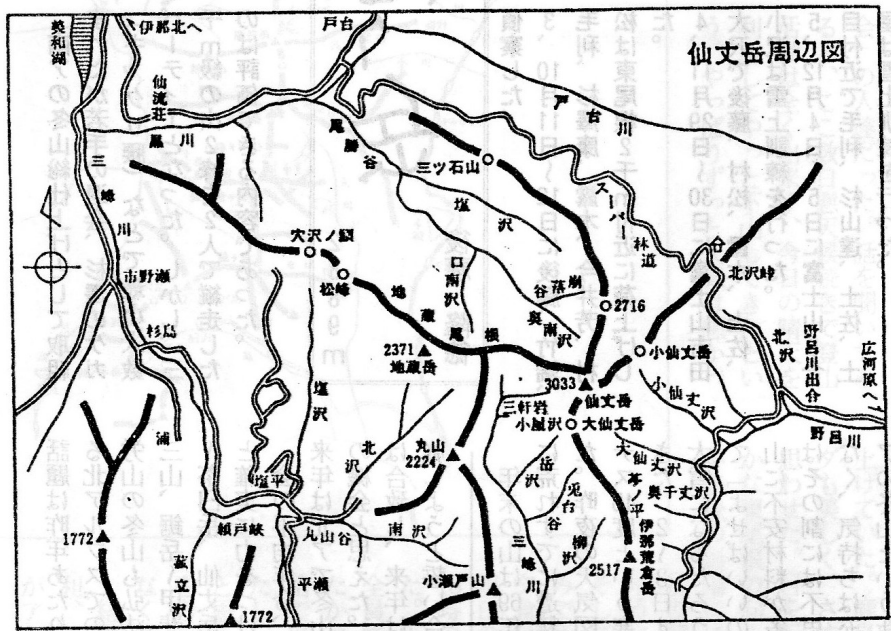
これは後になって分かった事だが、この日北沢峠隊の今井らは小仙丈で引返した。また、まだ労山に入会していなかった鈴木真理子（現・伊藤）も友人と2人で嵐をついて12時頃頂上に立ったそうだ。そして何と故川口君もこの日頂上よりやや南側の台地に幕営していたそうである。

頂上を辞す。北沢峠隊と交信を試みるが駄目だった。機械が故障していたようだ。小仙丈尾根の下

降は神経を使った。暗くなってきたうえ、ホワイトアウトでトレールが分からない。所々にある赤布を目を凝らして捜す。何度かルートを外したが何とか森林限界に逃げ込んだ。ピツタリ風がなくなる。ドカッと座り大休止。安堵感が広がる。時計は17時を回っていた。

もう1度北沢峠隊を呼ぶがやはり出なかった。完全に暗くなったのでランプを出し下降。大声でエーデルワイスを唄いながら行く。待望の北沢峠の明かりが見えた。テント村で「三島労山の竹端さん」と言って回るがどこからも返事はなかった。30分位捜したが、私達もメチャ

メヤに疲れていた



たので、それ以上はやめた。私達は甲斐駒の登り口付近に幕営。毛利は小屋にビールを買いに行く。ビールは無かったので日本酒を買って来た。日本酒はうまくいった。次第に元気も出てくる。

夕食は牛肉のシャブシャブで大きな肉塊からナイフで薄く切り取って口に入れる。酒をグイグイ飲みながらだといくらでも腹に入った。2人だけの冬山だったが、それなりに楽しかった。20時頃寝る。今日は大晦日。今年も山で終わり、また山で始まる。毛利ともこんな風に4年経った。来年は是非北アに行こうと話す。今が潮時である。外はいつしか雪も止み、流れる雲間から月が見え隠れしていた。

- 1月1日(晴)
- へタイム 起床 3:00 出発 5:00
- 1 甲斐駒 11:00 竹宇 16:00
- 3 島 20:00

甲斐駒の道は良く踏まれていた。私も毛利も疲れが少し残っていた。北沢峠隊の件は「(台流出来なかったのは)仕方がない」との結論だった。それにしても装備は出発前に良く点検しないといけない。天気は最高で快晴無風。ただ雲海が広がっている。下界は良くなさそう。5合目付近で初日の出を拝む。毛利が写真を盛んに撮る。鳳凰と富士を入れたものは後に三島市展で「入選」をした。7合目付近で再び呼ぶが依然として交信不能。だが、川崎労山隊と交信出来たので事情を説明し、伝言を依頼する。甲斐駒にはいいペースで着いた。頂上は人も多く